



2022年11月14日  
第73号

# JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## イーハトーブ

11月15日号

2022年度の年末手当の会社回答は、2・4ヶ月12万円という組合員の声をもとに要求した3・3ヶ月と一律5万円を大きく下回る驚愕の回答だった。2020年以降、夏季手当、年末手当を絞られ、定期昇給も赤字を理由にカットされた。JR東日本では賞与は生活給の一部となっており、削減されると私たちの生活は厳しいという切実な思いなど、組合未加入者を含む6000件以上の声を交渉団は会社に突き付けている。今年は社員の努力によって黒字決算であり、この超低額回答に現場は怒り心頭だ。

さらに世間では急激な円安が進行している。先月には32年ぶりとなる1ドル150円を記録し、この1年間で約35円円安が進行している。その影響で約2万品目のものが値上げしている。これは安倍政権が掲げていた大規模な金融緩和政策に一因がある。長引く不況の中、企業は内部留保に資金を回し、給料を抑制してきた。その結果、人々はより安い輸入品を求めるようになった。しかし、円安の影響でもものの値上がりが止まらない。給料は上がらないため国民の生活は苦しくなっている。政府は様々な生活支援を決めたが、それが本当に生活支援になっているのかは疑問である。根本的な解決は、企業が社員の賃金を上げることである。内部留保ではなく、労働者の給料に回せば、家庭への負担は軽減出来る。

JR東日本は「過去最高」を記録し続けた好業績の時代にあつては社員の賃金を「突出感」を理由に抑え、業績が悪化すれば「足元の業績」を理由に減額してきた。そして21春闘以降、あまりに人件費削減のみが過剰に追求されていることに怒りを感じる。市民生活や労働者の生活実感からかけ離れた「別の共通利害」を優先していると思えない。その恩恵とは、実は一握りの人々のみ適用されているのではないか。

今、会社内でもモノ言える風土が失われつつある。おかしいという声をあげることが大事だ。ダメなものダメだと言う勇氣が必要だ。一人では無力だ。組織力は数だと、今ほど教えてくれる時代はない。黒字なのに賃金がカットされたというこの現実から目をそらし「貰えるだけありがたい」と言われ続け、騙され続け、それでも耐えますか？諦めて会社を辞めますか？今こそ労働組合に結集してより良い会社にしていくべきではないか。物質的に転化したたかえるのは唯一労働組合だし団結なのだ。私たちは会社回答を断じて認めることはできない！更なる団結を強化し、満額回答を得るために、最後の最後までたたかいぬこう！

(Y・H)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。